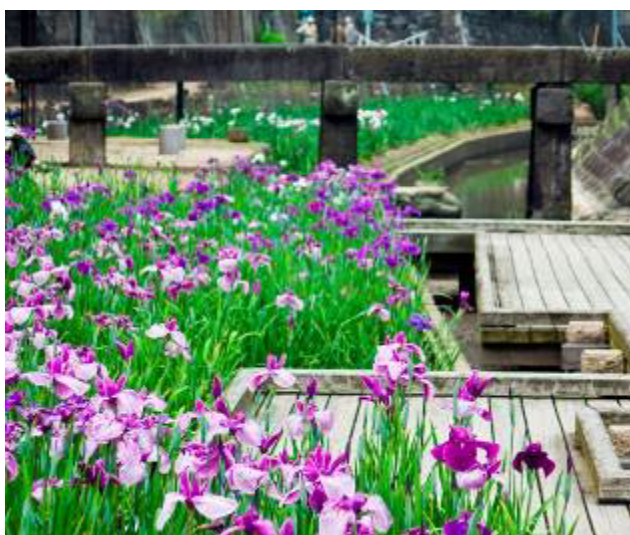




菊池川が育んだ味わい深い景観を語るまち



玉名市 景観計画

平成 28 年 ○ 月 玉名市



目 次

1. 玉名市景観計画の目的と位置づけ.....	1
1-1 目的	1
1-2 計画の位置づけ	1
2. 現況	2
2-1 人口と高齢化	2
2-2 歴史	4
2-3 地勢	6
2-4 土地利用現況	7
2-5 文化財	8
3. 景観特性	9
3-1 面的・線的特性	9
3-2 線的・点的特性	11
3-3 景観構造（断面特性）	12
3-4 景観特性（伝統・行事）	13
3-5 景観まちづくり活動	14
3-6 玉名市を代表する景観（玉名らしい景観特性）	16
4. 景観に係る課題整理	18
4-1 景観課題に関する基本的考え方.....	18
4-2 景観課題	19
5. 景観の将来像と基本方針	エラー！ブックマークが定義されていません。
5-1 景観の将来像	エラー！ブックマークが定義されていません。
5-2 景観形成の基本方針	エラー！ブックマークが定義されていません。
6. 景観計画区域（法第8条第2項第1号関係）.....	エラー！ブックマークが定義されていません。
7. 景観形成方針	エラー！ブックマークが定義されていません。
7-1 景観形成方針の考え方	エラー！ブックマークが定義されていません。
7-2 景観形成方針の内容	エラー！ブックマークが定義されていません。
8. 玉名市における景観形成	エラー！ブックマークが定義されていません。
8-1 景観形成推進地区・景観形成準備地区・一般地区と眺望景観保全地区.....	エラー！ブックマークが定義されていません。
8-2 地区区分	エラー！ブックマークが定義されていません。
8-3 地区別の景観形成	エラー！ブックマークが定義されていません。

- 9. 景観重要建造物及び景観重要樹木の指定の方針..... エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 9-1 景観重要建造物の指定の方針..... エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 9-2 景観重要樹木の指定の方針 エラー! ブックマークが定義されていません。
- 10. 屋外広告物に関する基本方針 エラー! ブックマークが定義されていません。
- 11. アクションプラン（協働の景観づくり） エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 11-1 アクションプランの考え方 エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 11-2 アクションプランの内容 エラー! ブックマークが定義されていません。
- 12. 資料編 エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 12-1 関連計画 エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 12-2 住民意向 エラー! ブックマークが定義されていません。
 - 12-3 景観ワークショップ及び景観学習会..... エラー! ブックマークが定義されていません。

1. 玉名市景観計画の目的と位置づけ

1-1 目的

本市は、菊池川の恵みをうけ、豊富な水と緩やかに広がる玉名平野を有しています。また、小岱山や熊ノ岳・三ノ岳などの山々、有明海を望む、恵まれた自然資源に加え、古代・中世に築かれた古墳や遺跡、高瀬地区の歴史的なまちなみ等、歴史資源にも恵まれた田園都市です。

さらに平成 23 年 3 月の九州新幹線開通に伴い、新玉名駅が整備され、市の玄関口として更なる市街地の発展が見込まれています。

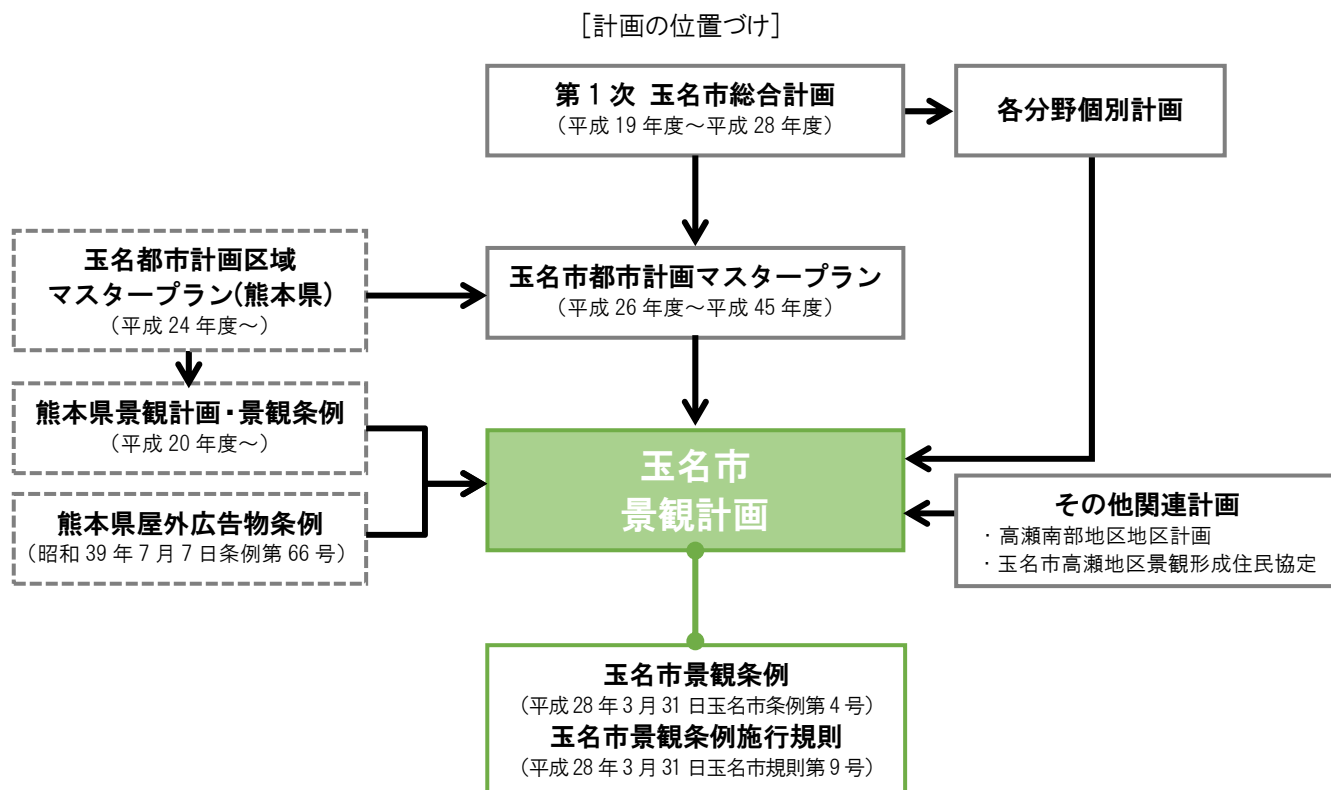
これらを契機として、自然環境や歴史資源と調和したまちなみ景観の創出により、街なかの賑わい創出と市民がやすらげる環境を創出する必要があります。

本計画は、それらの実現に向けて、市全体の景観形成の指針を示し、様々な取組を効果的かつ総合的に推進するものです。

※ 熊ノ岳は二ノ岳とも呼ばれますが、本計画書では「熊ノ岳」と表記します。

1-2 計画の位置づけ

玉名市景観計画は以下のような位置づけとなっています。



2. 現況

2-1 人口と高齢化

2-1-1 人口と高齢化の状況

① 人口

国立社会保障・人口問題研究所は、2040年の玉名市の人口を約5万人、高齢化率を約4割と推計しており、この傾向が続けば、2060年時点の人口は4万人を下回ると推計されています。

そのような状況の中、平成27年12月に発表した「玉名市人口ビジョン」では、今後予測される人口減少に対し、市民の希望・理想が実現した場合の出生率や、熊本県の人口ビジョンにならい、社会減を2020年までに半分程度に縮小し、その後は人口移動が均衡することで、2060年の人口が5万2千人となる将来展望を示しています。

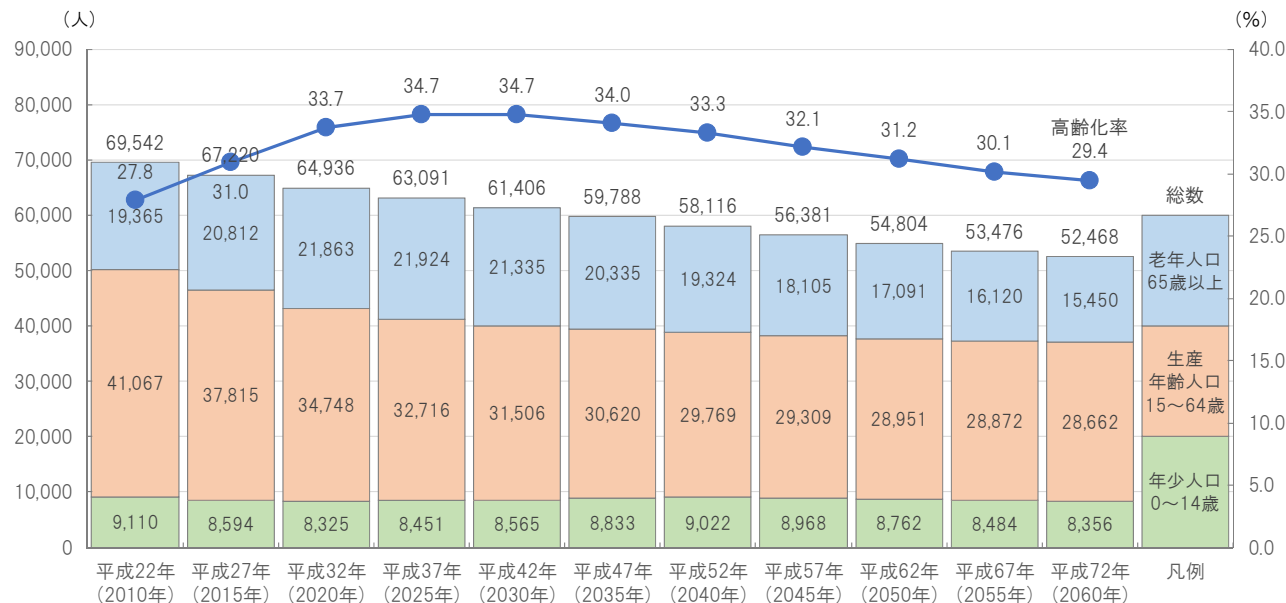
[玉名市の人口ビジョン]

	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)	平成57年 (2045年)	平成62年 (2050年)	平成67年 (2055年)	平成72年 (2060年)
総数(人)	69,542	67,220	64,936	63,091	61,406	59,788	58,116	56,381	54,804	53,476	52,468
年少人口：0～14歳	9,110	8,594	8,325	8,451	8,565	8,833	9,022	8,968	8,762	8,484	8,356
生産年齢人口：15～64歳	41,067	37,815	34,748	32,716	31,506	30,620	29,769	29,309	28,951	28,872	28,662
老年人口：65歳以上	19,365	20,812	21,863	21,924	21,335	20,335	19,324	18,105	17,091	16,120	15,450

年齢別割合(%)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)	平成57年 (2045年)	平成62年 (2050年)	平成67年 (2055年)	平成72年 (2060年)
年少人口：0～14歳	13.1	12.8	12.8	13.4	13.9	14.8	15.5	15.9	16.0	15.9	15.9
生産年齢人口：15～64歳	59.1	56.3	53.5	51.9	51.3	51.2	51.2	52.0	52.8	54.0	54.6
老年人口：65歳以上	27.8	31.0	33.7	34.7	34.7	34.0	33.3	32.1	31.2	30.1	29.4

出典：玉名市人口ビジョン(平成27年12月)：平成27年以降は推計値

[将来人口推計と高齢化率の推移]

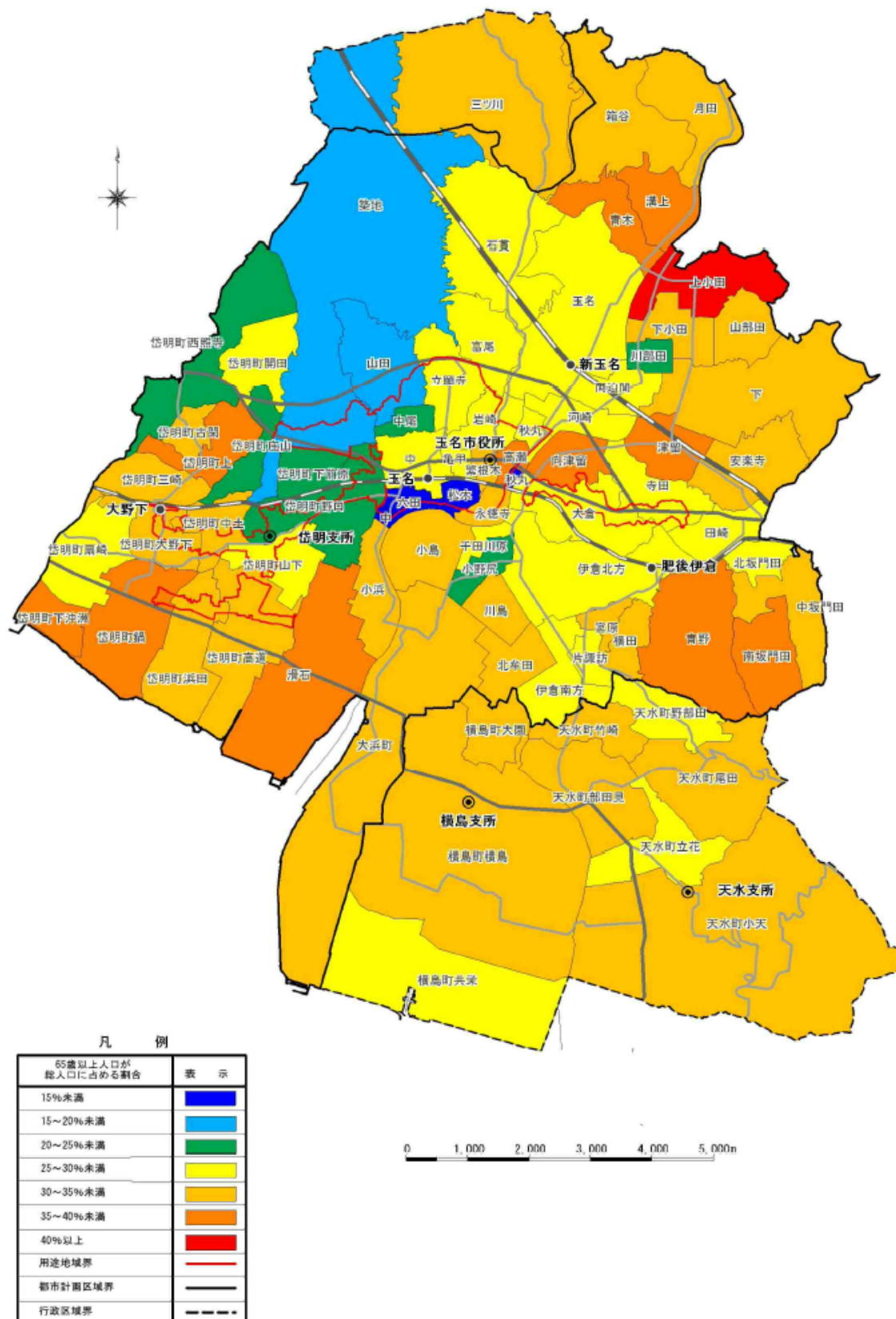


出典：玉名市人口ビジョン(平成27年12月)：平成27年以降は推計値

② 高齢化

横島地区、天水地区、岱明地区の沿岸部において比較的高い結果となっています。

[高齢化の状況]



2-2 歴史

2-2-1 玉名市の歴史

① 原始・古代

縄文時代から人々の暮らしの跡を連綿とたどることができます。米造りの技術や金属器が伝わった弥生時代には、斉藤山貝塚から日本最古といわれた鉄斧が出土しています。中期以降には大規模な集落が営まれ、広域での交流を物語る南海産のゴホウラ製貝輪や、青銅製の鏡などの貴重な遺物がみられます。

古墳時代には、玉名平野周辺に有力な前方後円墳が築かれます。阿蘇溶結凝灰岩製の石棺は瀬戸内海から近畿地方まで運ばれ、この地域がヤマトの王権にとっても重要な地であったことを示しています。後期には、大坊古墳、永安寺東古墳・西古墳、石貫ナギノ横穴群や石貫穴観音横穴など色鮮やかな装飾古墳が盛んに造られます。

国のかたちが整えられた奈良時代には、玉名平野を中心に方形の土地区画である条里制が広がります。立願寺周辺は、古代玉名郡の中心地であった郡倉、郡家、郡寺の推定地があります。また、小岱山麓一帯では、六反製鉄跡にみられるように砂鉄をつかった製鉄が盛んにおこなわれます。玉名平野の稲作に加え経済的な基盤となっていたことが考えられ、菊池川の河口は海上交通の拠点となっていました。

② 中世

武士が活躍した鎌倉から室町時代には、菊池氏が高瀬の港を軍事、貿易の根拠地としました。一族の高瀬氏が保田木城を築いたとされ、高瀬の町が形づくられていきます。菊池川では中国製の焼物が大量にみつかり、国際貿易港としての名残です。中国商人や高僧の往来などもあり、寿福寺を始めとする高瀬五山や、伊倉五山のほか、様々な宗派の寺院が建立されて仏教文化が花開きます。

戦国時代になると、高瀬はキリシタン大名大友氏の支配下にはいります。ルイス・フロイスなど多くの宣教師が立ち寄り、布教活動と共に貿易にも関わっていたので、港としての高瀬、伊倉は重要な地域でした。その後江戸時代の初めにかけて、キリシタン墓碑や、中国商人達の墓などが残されています。

③ 近世

豊臣秀吉の天下統一後、加藤清正が入国しました。菊池川の掘り換えをおこなうなど、多くの事業を行ったとされていますが、二代で改易になり、細川氏が入国します。

高瀬は重要な港として、御蔵や御茶屋が整備されます。天保年間には藩内最高の 25 万俵を扱っており、大坂へ廻送された高瀬米は、堂島の米相場を左右したと言われています。高瀬の町は熊本藩五か町の一つとして町奉行がおかれ、商業などの特権を与えられて、大坂や瀬戸内方面と盛んに商取引を行っていました。廻船問屋町の大浜も商業活動が活発となり繁栄します。

④ 近・現代

明治 10 年の西南戦争では戦場になり、高瀬御蔵、御茶屋など主要な施設も焼失し、港としての機能は大幅に失われました。明治 24 年には九州鉄道が開通し、流通手段は水運から鉄道へと移行します。

新しい産業として、米作と並んで盛んになったのが蚕糸業です。大正時代入ると機械製糸が導入され、基幹産業として発展しました。また、明治 34 年には大浜町で早野義章により海苔の養殖が導入され、今日も盛んな有明海の海苔養殖へとつながります。

戦後の復興期を経て、自動車交通の発達とともに、国道 208 号、501 号が整備され、交通の要衝としても栄えてきました。交通の利便性や豊富な人材を背景に、伝統の海苔加工を始め、近年は自動車関連などの工

業生産も盛んです。また、玉名温泉、小天温泉など良質な温泉にも恵まれ、多くの史跡とともに観光資源となっています。農業生産では、広大な干拓地での従来からの米作に加え、イチゴやトマトなどの生産が、また金峰山塊西麓の丘陵地帯では、柑橘類の生産が盛んです。

平成 17 年 10 月には、玉名市と岱明、横島、天水 3 町の合併で新玉名市が誕生しました。平成 23 年には九州新幹線の開通により新玉名駅が開業し、菊池川の恵みとともに栄えた玉名市は、熊本県北の拠点都市として現在に至ります。

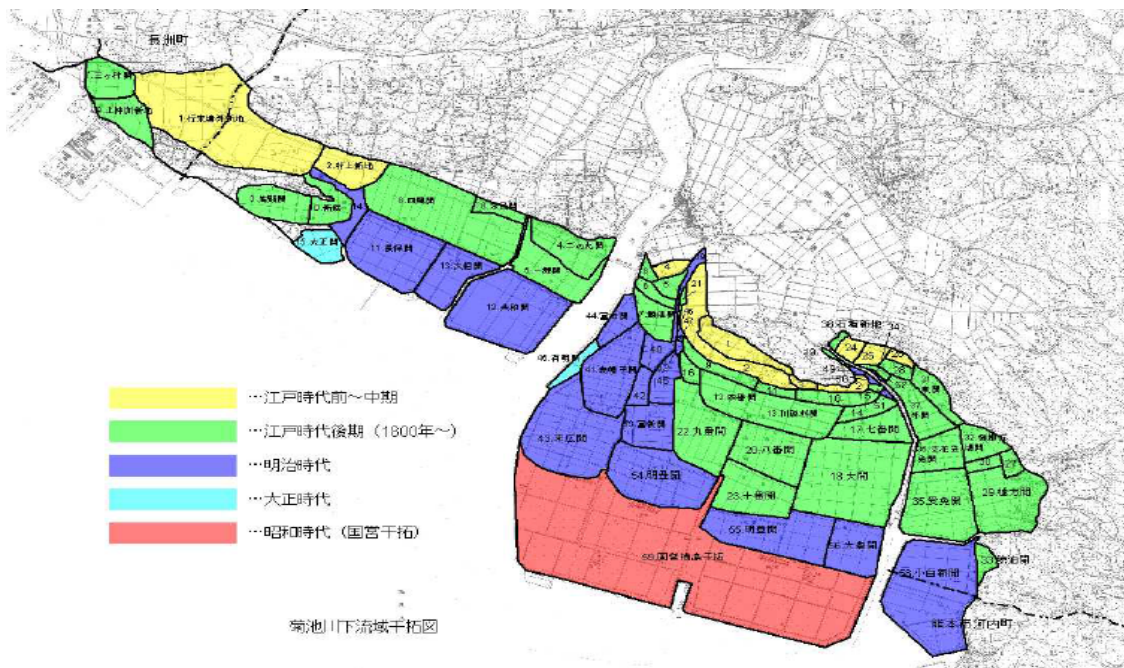
2-2-2 干拓の歴史

菊池川が運んだ土砂は有明海に広大な干潟を産み出し、大きな干満の差を利用して干拓が行われてきました。江戸時代から昭和に至る間に、75 か所の干拓地が拓かれました。文化年間以降は特に盛んに行われ、横島で細川藩家老の有吉家が中心となって大規模に事業を行ったほか、有明海沿岸で多くの耕地が拓かれました。

明治 20 年から 30 年代には地元の大地主共同による、比較的大規模な干拓事業が進みました。大浜町の末広開、横島町の明丑・明豊・大豊開が相次いで開かれており、5.2 km に及ぶ堤防と樋門が国指定重要文化財旧玉名干拓施設として残されています。昭和 42 年の国営横島干拓完成まで、第一線堤防として高潮被害からの復旧と補強を繰り返し、豊かな実りを支えてきました。土木技術の面からは優れた建造物として、また豊かな農地を含めて重要な文化的景観として注目されています。



〔干拓の歴史〕



出典：玉名市の干拓遺産

2-3 地勢

本市は熊本県北西部に位置し、南北の距離は約 17km、東西は約 14.5km、市域の面積は約 152km²です。

菊池川は、流域の大地をうるおし、豊かな文化を育んできた「人々の生活を支えてきた恵みの川」であり、本市は、菊池川の恩恵を受けて繁栄してきました。菊池川が運んだ土砂による有明海の広大な干潟は、豊かな生態系を育み、海苔やアサリなどの水産業が盛んに行われています。

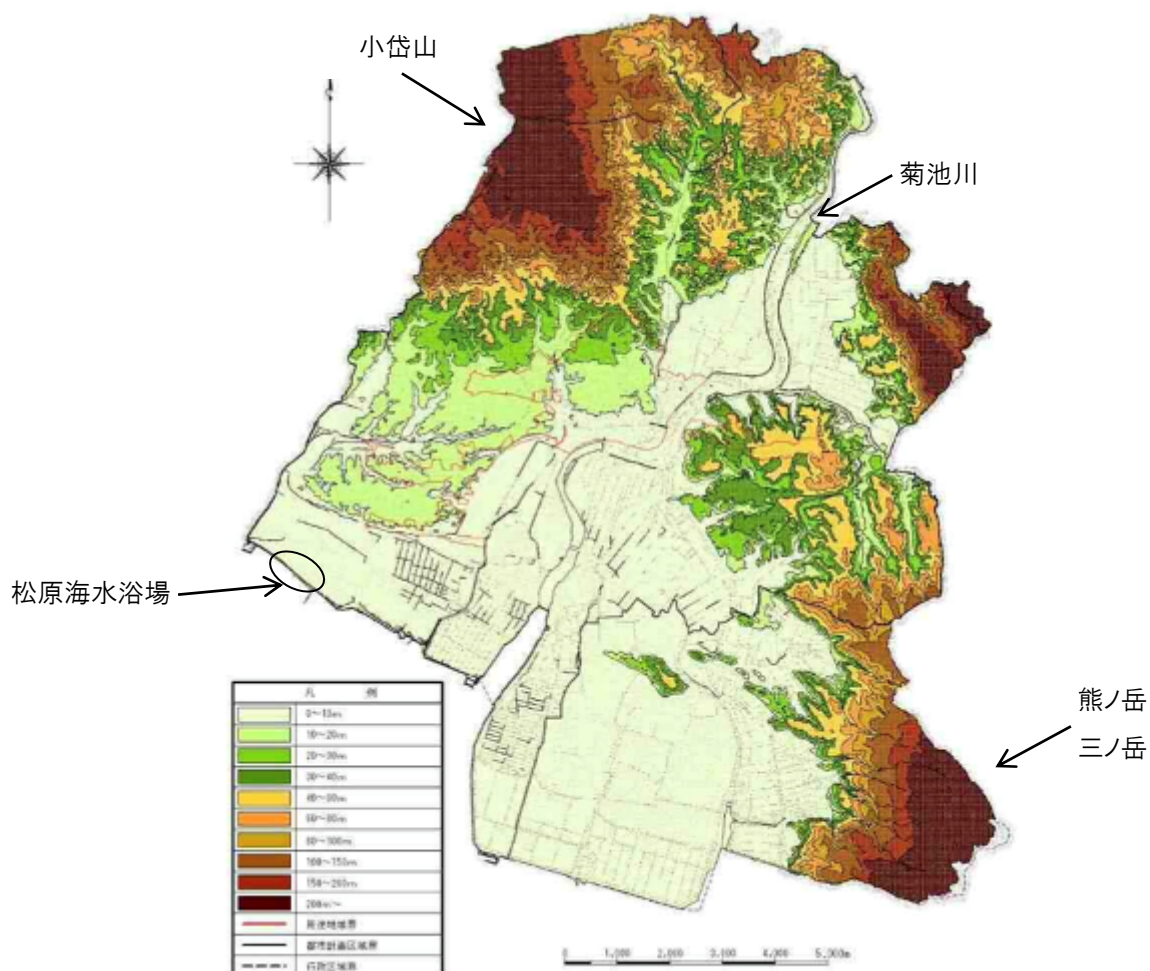
菊池川と市の中心部を挟んだ北側には、小岱山系の山々と麓の丘陵地帯の濃い緑が見られます。また、市東南部の天水地区では金峰山系の熊ノ岳・三ノ岳がそびえ、その西麓にはなだらかな丘陵地帯が広がっており、柑橘類の栽培が盛んです。

広大な干拓地は豊かな穀倉地帯であり、本市の主な作物である米、麦を中心に、イチゴ、トマトなどの施設園芸が行われています。

小岱山の麓には 1300 余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉を有しています。また、市の南部、有明海を望むみかん園の裾野にある小天温泉は、夏目漱石の名作「草枕」の舞台としても知られています。

海辺には熊本県北唯一の松原海水浴場があります。

[玉名市の地形(標高)]



2-4 土地利用現況

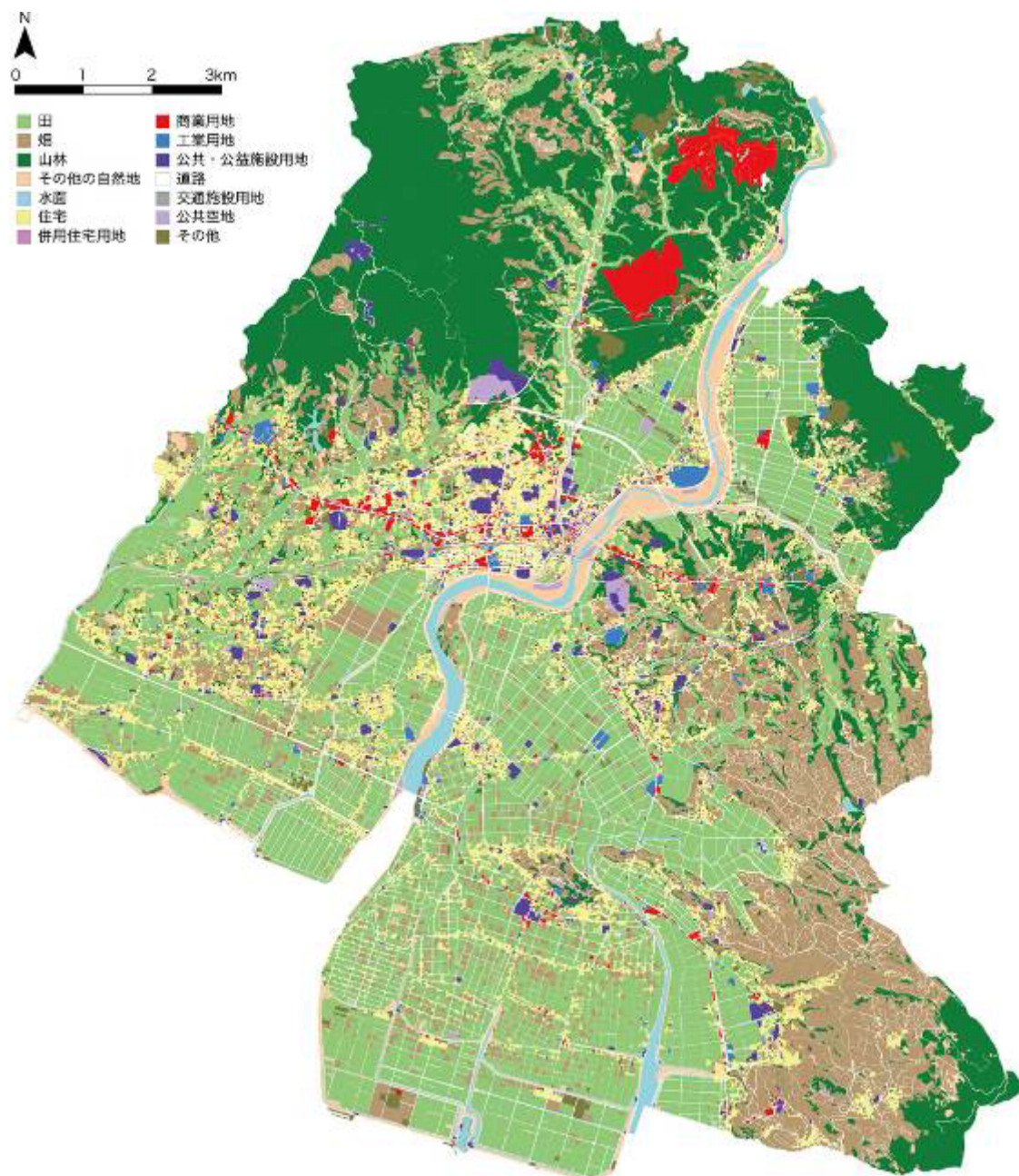
玉名市の土地利用現況は、田と畑で市域面積の約半数を占め、自然系面積は市域面積の8割を占めています。

〔玉名市の土地利用現況〕

自然系					人工系								その他
田	畑	山林	その他の自然 地	水面	住宅	併用住 宅用地	商業 用地	工業 用地	公共・ 公益施 設用地	道路	交通施 設用地	公共 空地	
4,641	2,784	3,339	685	435	1,325	40	275	112	259	815	57	67	323
30.7%	18.4%	22.0%	4.5%	2.9%	8.7%	0.3%	1.8%	0.7%	1.7%	5.4%	0.4%	0.4%	2.1%

上段の単位：ha

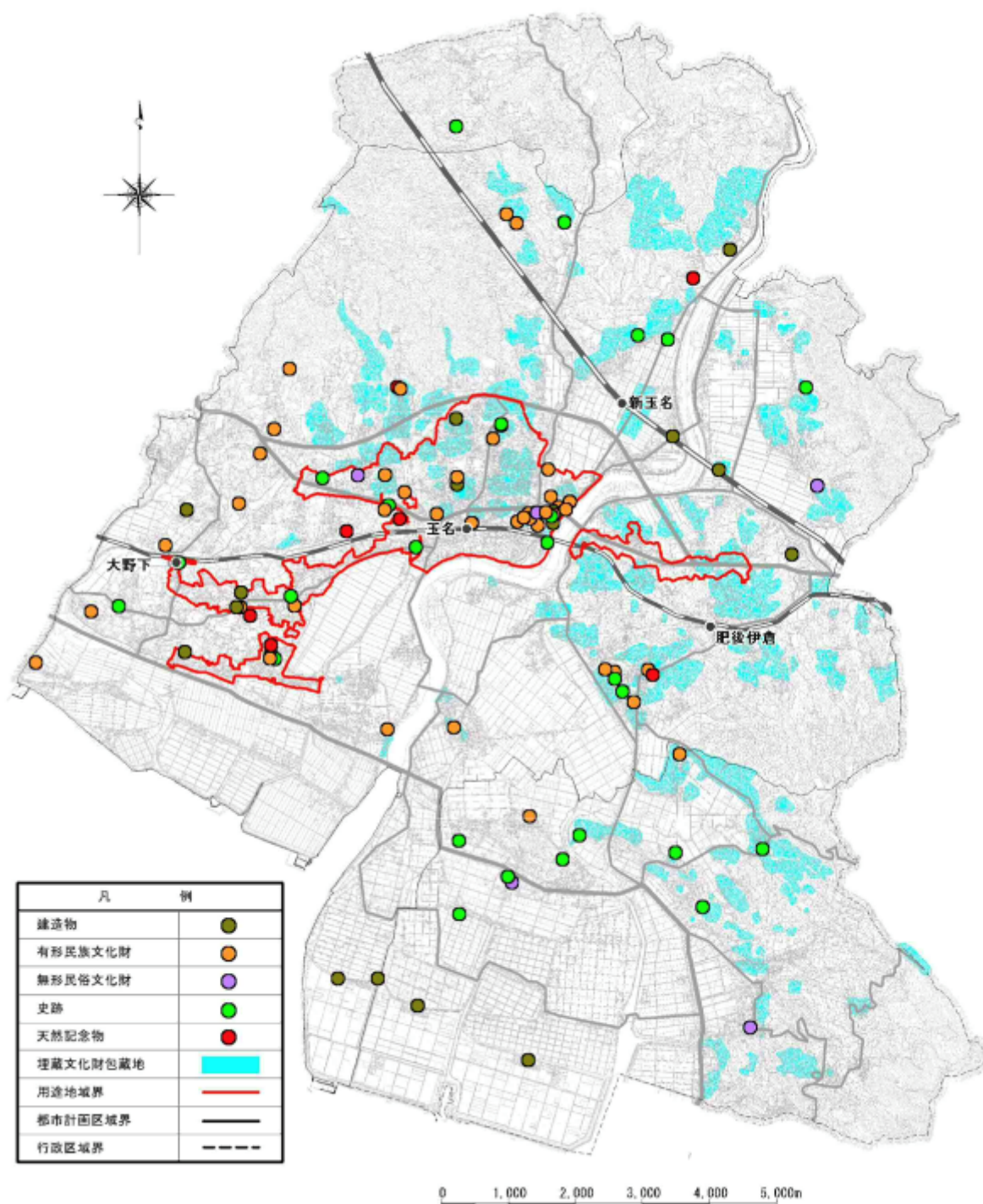
〔土地利用現況図〕



2-5 文化財

本市の文化財指定状況は、指定・登録併せて 153 件となっています。(H28. 3. 31 現在)その内訳は、国指定文化財 9 件(旧玉名干拓施設、大坊古墳など)、国登録記念物 1 件(菊池川堤防のハゼ並木)、国登録文化財 7 件(梅林天満宮、熊本県立玉名高等学校本館など)、県指定文化財 13 件(高瀬目鏡橋、経塚・大塚古墳群など)、市指定文化財 76 件(伝左山古墳、高瀬船着場跡など)、市登録・選択文化財 47 件(玉名郡倉跡、石塘附石塘樋門など)と内容は自然や干拓遺産をはじめ歴史的文化財など多岐にわたっています。

[文化財位置図]



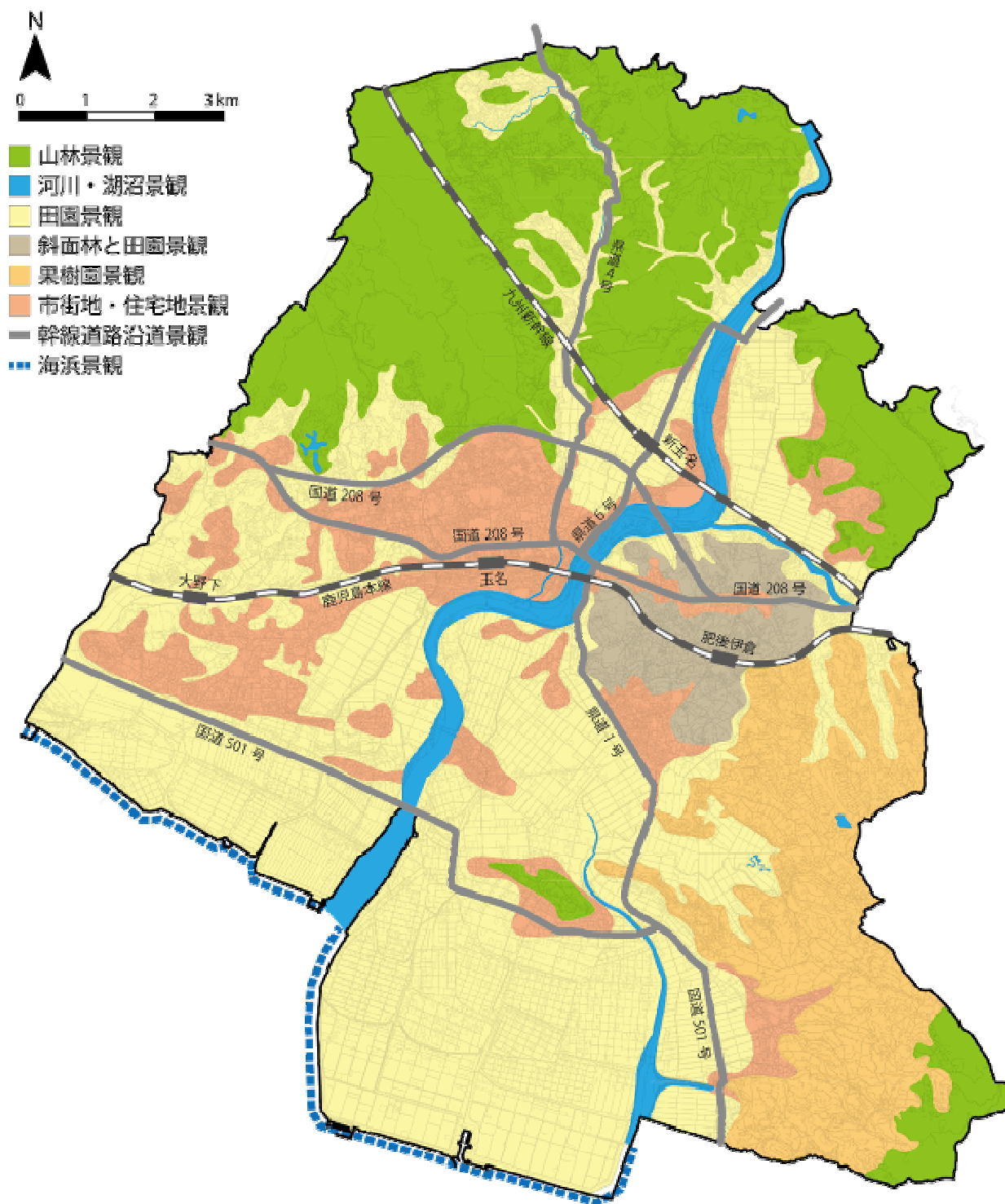
出典：玉名市資料、H23 都市計画基礎調査

3. 景観特性

3-1 面的・線的特性

本市の成り立ちや土地利用現況、現地の状況を踏まえると、山林景観、河川・湖沼景観、田園景観、斜面林と田園景観、果樹園景観、市街地・住宅地景観、幹線道路沿道景観、海浜景観に分類することができます。

[景観特性図]



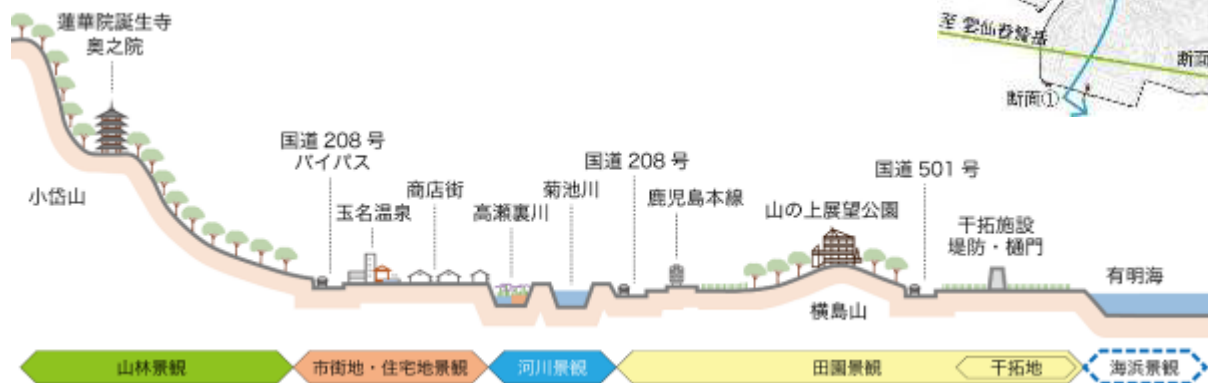
山林景観	小岱山や熊ノ岳・三ノ岳などの山々による緑豊かな景観が見られます。			
河川・湖沼景観	菊池川はじめ、高瀬裏川、繁根木川などの河川、尾田の丸池などの湖沼景観が見られます。			
田園景観	広大な田園、干拓地が広がり、美しい農地景観が広がっています。			
斜面林と田園景観	斜面林に囲まれた田園景観が広がっています。			
果樹園景観	熊ノ岳・三ノ岳などの山々を中心にみかん畑が広がり、石垣が特徴的な景観となっています。			
市街地・住宅地景観	高瀬のまちなみや住宅地、新玉名駅の新たな市街地がつくられています。			
幹線道路沿道景観	街なかでは、多彩な看板が設置されています。沿道には緑や花が植えられている所もあります。			
海浜景観	有明海の干潟や美しい白浜の海岸、漁船等の景観が見られます。			



3-3 景観構造（断面特性）

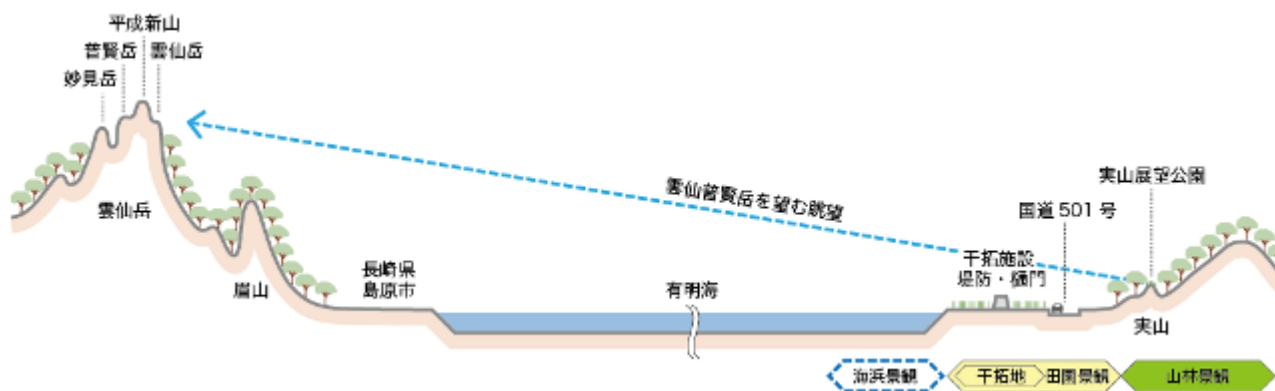
3-3-1 断面①

小岱山から有明海の断面構造を見ると、山林景観、市街地・住宅地景観、河川景観、田園景観、干拓地、海浜景観となっており、多様な景観がつくられています。



3-3-2 断面②

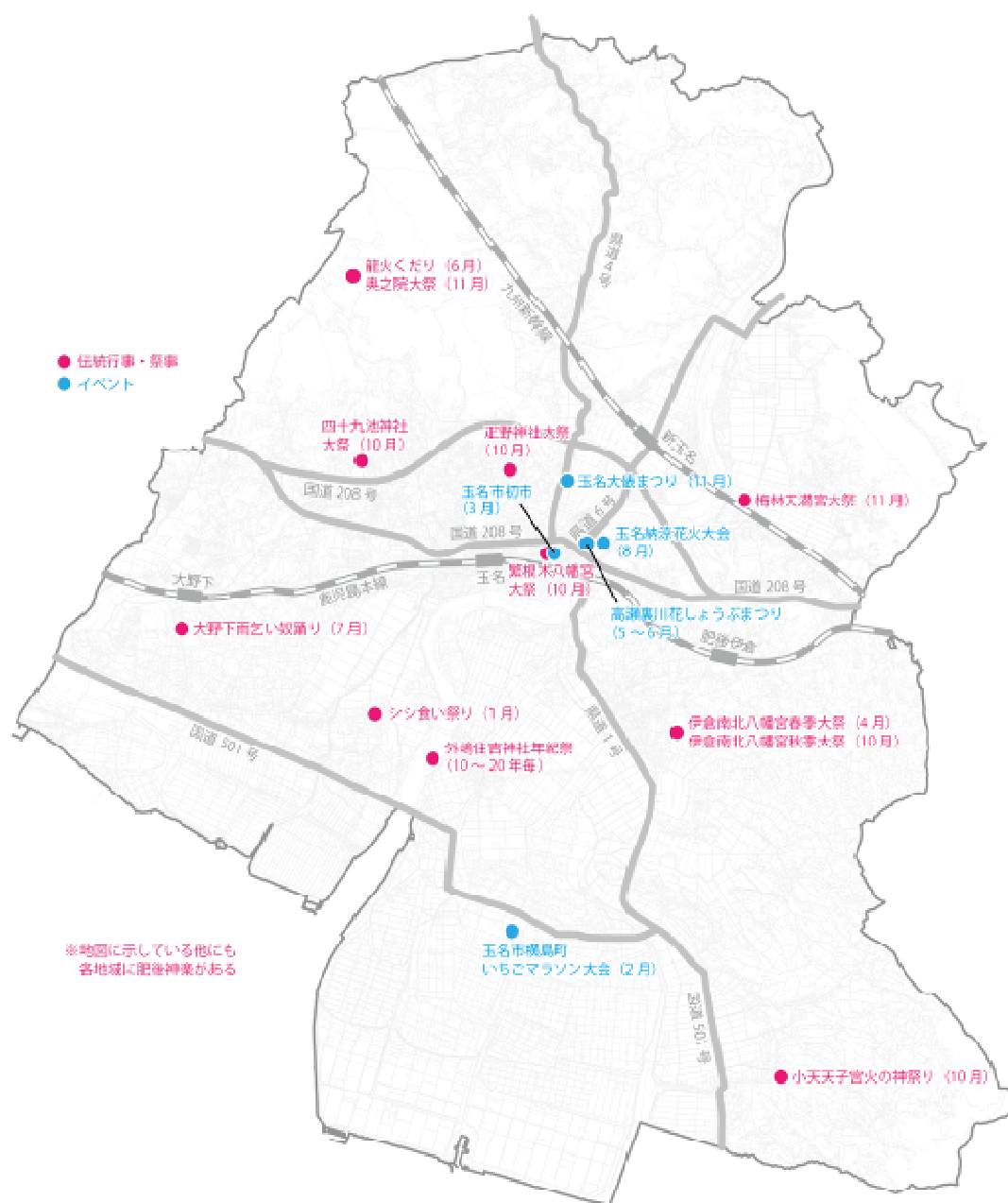
実山展望公園からは、干拓施設を含む美しい田園景観が眼下に見え、その先には有明海が広がり、遠景には雲仙普賢岳を望むことができます。このような壮大な景観を望むことができる代表的な眺望点となっています。



3-4 景観特性（伝統・行事）

本市のまつり・イベントは、春夏秋冬で非日常の景観を見せています。

〔伝統行事・祭事・イベント開催地〕



高瀬裏川花しょうぶまつり



玉名大俵まつり



小天天子宮火の神祭り



3-5 景観まちづくり活動

市内では、景観に関わるまちづくり活動が行われています。これらの活動は市民の身近な所から良好な景観を生み出すことができ、景観づくりの大きな力となっています。

〔まちづくり活動団体(一例)〕



修景前



修景後

高瀬地区修景事業
(高瀬まちづくり協議会)



うろんころん高瀬
(高瀬まちづくり協議会)



高瀬まちとみちを考える集い
(高瀬まちづくり協議会)



干拓堤防の清掃
(玉名市横島町文化財保存顕彰会)



サテライト研究室
(崇城大学秋元研究室)



天水ウォーキング
(天水・草枕の里観光協議会)



花いっぱい運動
(八嘉校区まちづくり委員会)



築山校区の花づくり
(築山校区まちづくり委員会)



藤の里事業
(築山校区まちづくり委員会)

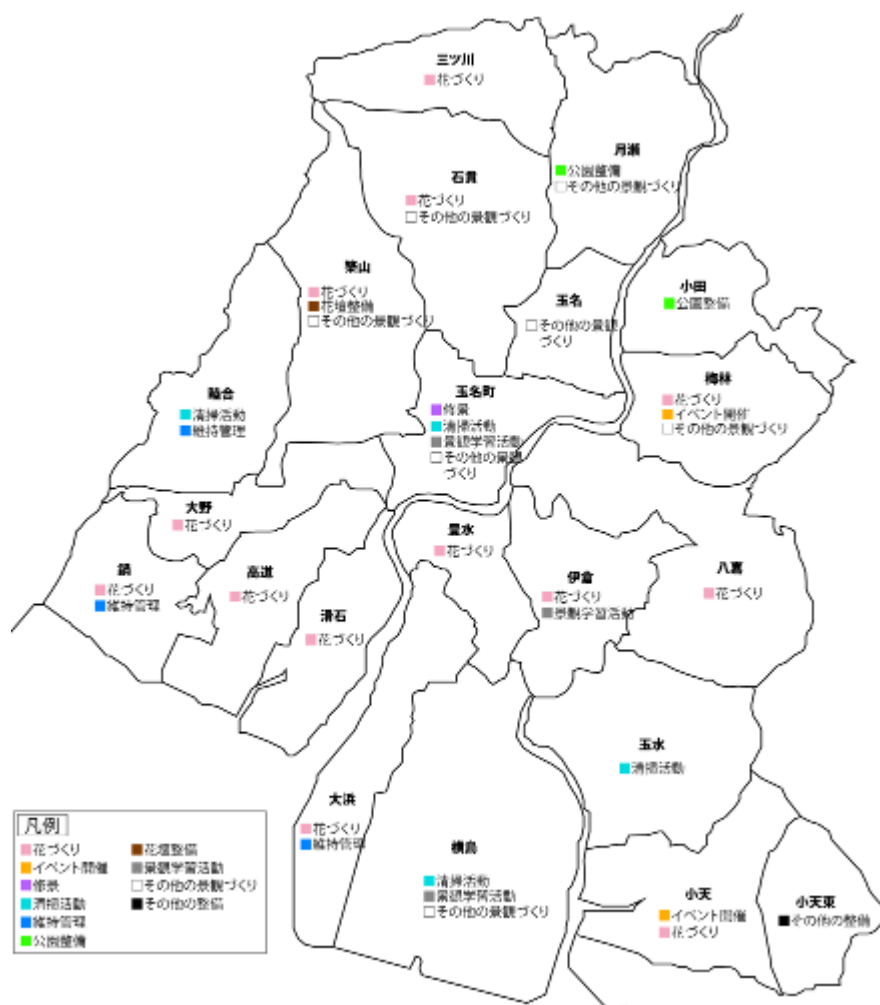


田んぼアート
(『たまな稲！田んぼアート』プロジェクト実行委員会)



ホタルの里 日嶽清掃活動
(睦合校区まちづくり委員会)

「市内の景観に係る活動の種類」



玉名市には、数多くの景観資源が立地しています。そのなかでも、玉名市を代表する景観をまとめると以下ようになります。

自然景観		
玉名市にあらゆる恵みを与えてきた 菊池川の景観  本市を貫く雄大な菊池川の景観は特徴的です。	小岱山系や金峰山系が育む 緑豊かな山林景観  小岱山や金峰山は地域のシンボルであり、豊かな山林景観が育まれています。	美しい有明海と 松原海岸の海浜景観  白浜海岸と松原、広大な干潟を有する有明海が美しい海浜景観を見せています。

生業景観		
雄大な農地が広がる 美しい田園景観  広大な農地が広がる田園景観は、四季を通じて美しい姿を見せています。	約 400 年もの長い年月をかけて 築造された干拓地の文化的景観  先人たちの努力や歴史を感じる干拓施設と干拓地が調和した姿は希有な景観となっています。	丘陵地帯の特性を生かした 石積みのみかん畑の景観  広大なみかん畑と石垣が調和した特徴的な景観がつくられています。

市街地景観		
商人のまちとして栄えてきた 商店街と高瀬裏川の景観  高瀬のまちなみや石垣と石橋、花しょうぶが織りなす特徴的な景観がつけられています。	1300 余年の歴史を持つ玉名温泉と 温泉街のまちなみ景観  玉名温泉の歴史を伝える温泉街のまちなみは、独特の景観を見せています。	新しい市街地形成が期待される 新玉名駅の周辺景観  新しい顔としての整備が期待される新市街地の景観となっています。

眺望景観		伝統行事・祭事景観
稜線が美しい山並みを望む 玉名平野からの眺望景観  小岱山や金峰山の稜線が、美しい眺望景観を見せています。	玉名平野を眼下に、 遠景の雲仙普賢岳を望む 絶景の眺望景観  眼下に広がる玉名平野やみかん畑、遠景に望む雲仙普賢岳の眺望は、圧巻な景観を見せています。	春夏秋冬の伝統行事による 非日常の景観  伝統的な行事や祭は、本市ならではの非日常的な景観を見せています。

4. 景観に係る課題整理

前記 2～3 の整理を踏まえ、本市の景観に係る課題を以下に整理します。

4-1 景観課題に関する基本的考え方

景観は、人々の生活や経済活動、自然活動等の「営み」により形づくられ、私たちの目に見えています。この「人・自然の営み」が本市の歴史や文化をつくり、玉名市らしさを表す景観要素となっています。

その営みから形づくられた景観要素は、地域の宝として守られてきた自然やまちなみ、遺構等もあれば、景観を阻害する要因となっている場合もあり、2つの性格を有しています。

そのなかで、本市には、人・自然の営みによってつくられた魅力的な景観資源がたくさんあります。

しかし、市民や来訪者にその良さが効果的に見せられておらず、魅力を伝えきれていない状況があります。こうした状況は、市民や来訪者に景観への興味が深まりにくくなり、関心・問題意識の醸成が十分に図られなくなってしまいます。

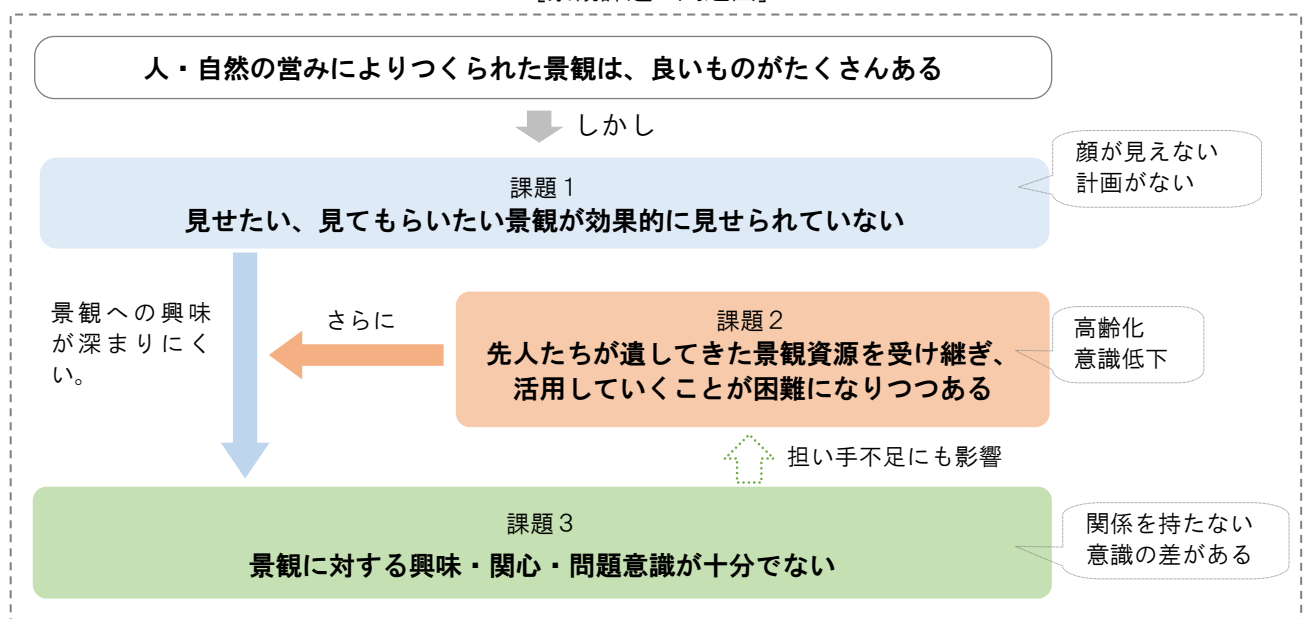
さらに、景観への意識が薄れると、先人たちが遺してきた景観資源がなくなってしまうたり、後世に受け継ぐことができなくなってしまうたりと、本市の魅力低下につながってしまいます。

このような状況を踏まえ、見せたい景観を的確に見せる「戦略的に見せる仕掛け」、景観形成には人の活動が不可欠であることから、「景観づくりの担い手確保」が重要となります。

さらに、人の営みにより景観が形づくられるため、人々の景観に対する意識が高いほど、景観に関する気配りができ、良好な景観形成を図ることができることから、市民の「景観意識を高める」ことが必要となります。これは、景観形成にあたって本質となる課題です。

これらを本市の景観に係る課題として整理し、良好な景観形成に向けて対応していきます。

〔景観課題の関連図〕



4-2 景観課題

前項の“4-1 景観課題に関する基本的考え方”の課題内容について、以下に整理します。

課題1 見せたい、見てもらいたい景観が効果的に見せられていない

玉名市には、小岱山や菊池川、干拓地、みかん畑、松原海岸、高瀬のまちなみ等、多様で良質な景観資源を有しています。個々の資源は魅力があるものの、景観資源付近のイメージにそぐわない広告がつくられたり、まちなみの連続性を欠いたりなど、景観資源を含めた空間の見せ方（演出）が十分でなく、景観としての魅力が高いとは言い難い状況があります。また、良い資源が多くあるからこそ、見せたい景観を絞り込めておらず、まちの顔が見えないという状況もあります。

そのため、今後の景観づくりにあたっては、本市が「見せたい、見てもらいたい景観」に焦点を絞り、玉名らしさを感じる景観を見せる戦略や仕掛けが必要です。

課題2 先人たちが遺してきた景観資源を受け継ぎ、活用していくことが困難になりつつある

現在の景観は、突然できあがったものではなく、先人たちの努力により長い年月を経て現在の景観がつくられています。こうした景観は、市民・事業者をはじめ、景観に関わるまちづくり団体や農家等の活躍が不可欠となっています。

しかし、人口減少や少子高齢化の影響を受け、活動を休止したまちづくり団体や農家数の減少による耕作放棄地が増えるなど、景観資源の維持だけでなく、まちづくり活動や農業等の生業が困難になりつつあります。

さらに、魅力的な歴史的資源や文化遺産が各地に残されているものの、十分に活かされておらず、なじみの景観が少なくなっているなど、景観資源を失いかねない問題も抱えています。

これらのことから、先人たちがつくりあげてきた景観を守り、活用していく担い手の確保が必要です。

課題3 景観に対する興味・関心・問題意識が十分でない

景観は、市民の日常の生活や経済活動の積み重ねにより形づくられています。その中で、自然やまちなみから目立つ高彩度の色彩の建築物や工作物、乱立する屋外広告物などにより、良好な景観を損ねていることがあり、ひとりひとりの行為が景観づくりにつながっているという当事者意識や問題意識が十分でない状況があります。

良好な景観形成の実現には、「良い景観をつくろう」とする景観に対する関心や「景観は市民の財産である」という意識を高めることが極めて重要です。意識を高めるためには、本市の景観資源やその良さを広く浸透させることが不可欠となります。さらに、景観に関する意義や大切さ、知識等を普及させ、意識の高揚を図ることが必要です。